



# 中小規模病院の医療安全対策

---

## QCサークル活動を活かした 行動目標5への取組

岩国市医療センター医師会病院  
医療安全全国共同行動プロジェクト

○安永 彰子 内山 哲史 長溝 大輔 向根 武之  
長尾 幸江 藤中みゆき 藤倉 岳司



開 設 平成5年8月1日

病院構成

- 入院部門（一般病床・救急病床等）
- 外来部門
- 人工透析部門
- 救急センター部門
- リハビリテーション部門
- 健診部門
- 総合連携部門
- 訪問介護部門
- 地域リハビリテーション支援部門
- 臨床検査部門

＜運営規模＞

病床数 〔本館＋東館〕 201床

診療科目

内科、血液内科、内分泌内科、腎臓内科、  
人工透析内科、消化器内科、循環器内科、  
小児科、外科、整形外科、脳神経外科、  
放射線診断科、麻酔科、ペインクリニック内科、  
リハビリテーション科

地域医療支援病院 承認

開放型病床〔健診ベッド除く〕197床 承認

共同利用施設

災害拠点病院 指定

救急告知病院 指定

日本医療機能評価機構認定病院



Iwakuni Med Centr.

医療安全全国共同行動2周年記念フォーラム(2010-5-15)  
ワークショップ 氏(無断転載不可)



# 中小規模病院の特徴

---

1. 病院長の声が職員に届きやすい
2. 他職種との連携が得やすい
3. 一般職員を巻き込んで活動を進めるのは容易である

# 当院(中小規模病院)での取り組み

---

1. 医療安全に対する中央の情報(NDP・医療安全全国共同行動等)を集めて、積極的に参加する → **支援組織に導かれていく**
2. 自分たちが取組んでいる得意な手法(QC)を活かしていく

QCサークル活動が負担であるという不満の声もあるが、病院として継続する方針を崩さない



# 医療安全に関する中央の情報

---

## 1. NDP (医療のTQM実証プロジェクト)

(転倒転落事故防止・危険薬誤投与防止)

## 2. 病院情報システム 基本要件検討プロジェクト

(調査協力病院として参加)

## 3. PCAPS (患者状態適応型パス)

(調査協力病院として参加)

## 4. 医療安全全国共同行動への参加

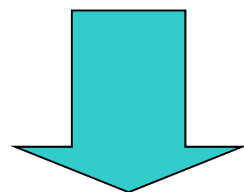
## 医療安全全国共同行動に参加

---


- 「やりたい」という天の声（病院長）
- 立ち上がれ！

NDPメンバー と 医療安全管理室

- 問題は、院内での活動の進め方！



まずは <院内キックオフ大会>



---

次は、8つの行動目標の中から、  
どういうメンバーで、  
どの目標に取り組むか！

# マトリクス図による目標設定

行動目標	具体的目標	効果 実施後の影響	費用 実施コスト	実現性	労力 作業時間	負担 関連部署偏在性	重大性 影響度	発生頻度 当院での	合計
1. 危険薬の誤投与防止	危険薬の誤投与に起因する死亡を防止する。	5	3	5	3	5	3	1	25
2. 周術期肺塞栓症の防止	周術期肺塞栓症による死亡を防ぐ	5	3	3	1	1	3	1	17
3. 危険手技の安全な実施	中心静脈カテーテルの穿刺挿入手技や経鼻栄養チューブの挿入留置手技に伴う有害事象とこれに起因する死亡を防ぐ	5	3	3	3	3	3	3	23
4.	<b>医療機器の安全な操作と管理に決定</b>								
5.	<b>ポイントは活動の負担が少ない</b>								
の安全管理	これに起因する死亡を防ぐ	5	3	5	3	5	3	3	29
6. 急変時の迅速								3	25
7. 事例要因分析								3	21
8. 患者・市民の医療参加	患者・市民に医療者・スタッフを通じてケアの質・安全と相互信頼を向上させる。	1	3	1	3	3	3	3	17

5点・3点・1点の点数制にて実施。



行動目標5に取り組む

## プロジェクトメンバーは7名

統括者: 病院長

会合は 月1回

委員長: 医療安全管理室 室長

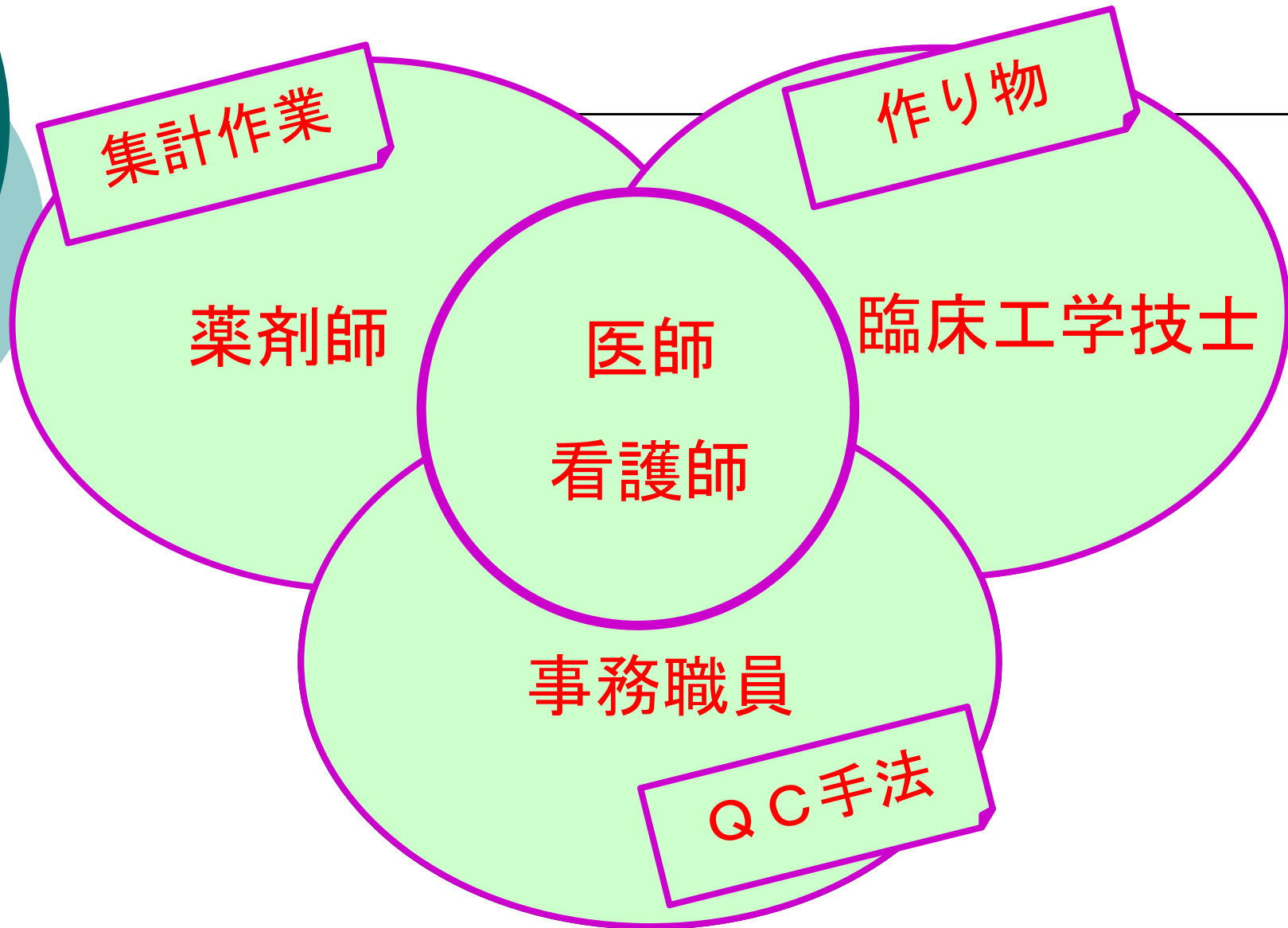
副委員長: 医療機器安全管理責任者 (ME)

医療の質・安全推進 (NDP) 委員長

委員: 医師 (麻酔科)

看護師 事務職員

# 組織横断的なチームづくり



# 輸液ポンプの場合 推奨する対策

## 機械サイドへの対策

- ポンプの機種の種類をできるだけ解消する
- 使用前・後、使用中点検と定期点検の実施

## 人間サイドへの対策

- 標準マニュアルを策定し、これに基づいた教育を受けた医療者のみ使用可とする
- ポンプ操作時のチェックリストを作成して使用する。

強く推奨

チャレンジ

- ポンプの機種を統一し中央管理体制を構築する

- 院内認定制度を設ける

医療安全全国共同行動

7

医療安全全国共同行動ホームページより



# プロジェクトメンバーで 推奨されている対策を 役割分担

---

## I. <機械サイド>への対策 ME室(臨床工学技士)を支援

- 輸液ポンプの中央管理と病棟使用機種種の限定
- 医療機器の点検計画とその実施
- 不足していた保守点検マニュアルの整備

## Ⅱ. <人間サイド>への対策は

### QCサークル活動

#### 輸液ポンプ班



#### 人工呼吸器班



# 当院でのQCサークル活動

---

事務部門の改善活動からスタートして今年で11年目を迎えた。

現在では、院内全部署及び院内委託業者を巻き込んだ活動に発展している。

2010年5月現在の登録サークルは20サークルとなっている。

# QCサークル活動で行った対策実施 (輸液ポンプサークル)

	何を	誰が	いつ	どこで	どのように
1	注射処方箋記載 マニュアルの一部	メンバー	6/23 ～	各病棟	貼りだす
2	ポンプ勉強会	ME	年2 回	講堂	第1回:新入職員対 象 基礎編開催 第2回:全職員対象 応用編開催
3	ポンプ簡易操作 マニュアル	メンバー ME	7月 ～	病棟	指導者に説明し 各ポンプに設置
4	技術チェックリスト	メンバー	7月	病棟	指導者への説明 と活用推進

# QCサークル活動で行った対策実施 (人工呼吸器サークル)


	いつ	誰が	何を	どうする
勉強会の開催	定期的に	医療安全管理室 と2階病棟担当 者が	人工呼吸器の勉強会を	実施する
手順表示を示すシールを貼る	ME室にて 保守点検時	臨床工学技士	手順表示を示すシールを	剥がれてないか チェックする
簡易 マニュアル	10月中旬	人工呼吸器チーム	初期設定も含めた手順表示	人工呼吸器に取り付ける
	定期的	臨床工学技士	破損の有無	確認する
定期的にテストをする	3ヶ月に1回	2F看護師	準備ができるか	チェックする



# QCサークル活動とは何か

(日本科学技術連盟発行の「QCサークル綱領」の中から)

- QCサークルとは、第一線の職場で働く人々が、継続的に製品・サービス・仕事などの品質の管理・改善を行う小グループである
- この小グループは運営を自主的に行い、QCの考え方・手法などを活用し創造性を発揮し自己啓発・相互啓発をはかり活動を進める
- この活動は、メンバーの能力向上・自己実現、明るく活かに満ちた職場づくり、お客様満足の向上及び社会への貢献を目指す

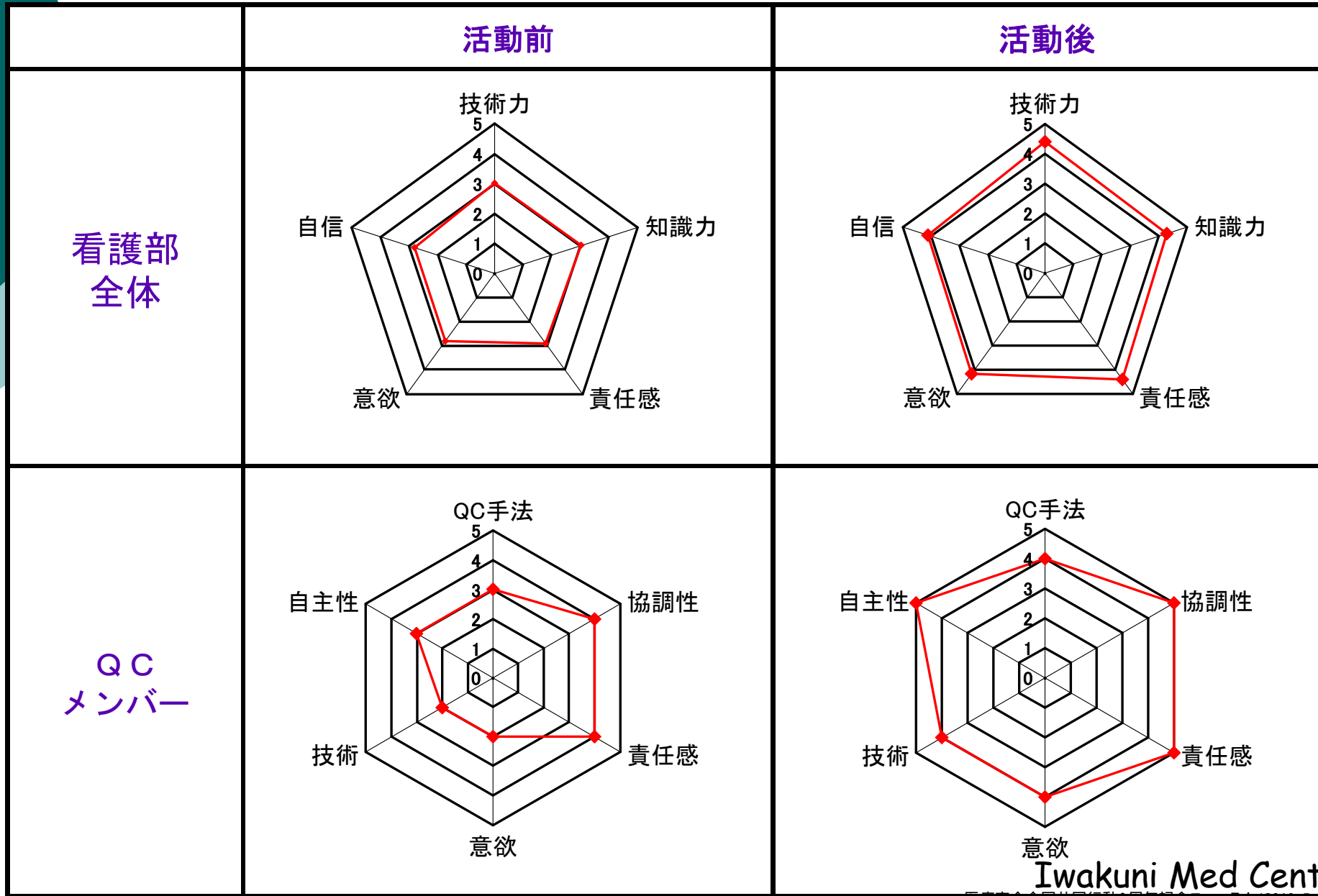



# プロジェクトチームによるQCサークル活動の 進捗管理とサポート

---

- 現状把握のためのインシデントレポートのデータ提供
- マニュアル作成のアドバイス
- 研修の講師依頼や受講者への案内、会場などの手配、看護部との教育計画の調整
- 部署長に対し、アンケート協力の依頼

# 今回の活動による無形効果





# 行動目標5 プロジェクト活動は とりあえず、終結

今後は、年1回 会合を開き、標準化が  
定着しているかを監視していく

新入職の医師に対し、注射指示記載のオリエンテーション  
が実施されているか

医療機器の勉強会が、計画通り実施されているか

医療機器の指導者の育成が継続されているか

技術チェックが年2回実施され、認定制度が機能しているか



## 次の活動へのステップアップ

---

残りの行動目標への取組みの重要性を知り、

継続した活動をするために、**今回の共同行動**

**参加を機に**、病院長直轄の医療安全管理室が、

今後も、組織横断的なメンバーで改善活動を

推進していく

# 新たな活動を少しずつ・継続的に

---

## 行動目標1 危険薬の誤投与防止

NDPメンバーを中心に、すでに取り組んでいた

## 行動目標2 周術期肺塞栓症の予防

深部静脈血栓症の予防についてガイドラインに

そった取組を希望した看護師たちの支援開始

行動目標3 および 4 未実施(これから)

行動目標5 活動終了



## 行動目標6 急変時の迅速対応

BLS受講したメンバーが患者の急変時にしっかり対応できるような自主的な活動を計画中

## 行動目標7 事例要因分析から改善へ

安全管理委員会の、今年度の具体的な活動の一つ

## 行動目標8 患者・市民の医療参加

インシデント報告をきっかけに、患者誤認の対策から、昨年より患者に名乗っていただく活動推進をはじめた



# おわりに

---

中小規模病院は、医師も看護師も不足がちで、新しい活動は、業務負担となることをおそれ、改善活動に消極的になりがちです。

今後も、目標を一つずつあげ、医療安全全国共同行動の支援ツールに助けられ導かれながら、地道に、継続的に安全対策の活動を続けたい